

2016年度事業報告書

特定非営利活動法人 チャイルドドクター・ジャパン

I 事業の期間

2016年4月1日～2017年3月31日

II 事業の成果

(1) 特定非営利活動に係る事業

①東アフリカケニアでのボランティア保健医療活動

i) 海外活動

ナイロビのチャイルドドクタークリニックを基盤に（ア）～（ウ）の医療支援3事業を実施した。

（ア）医療スポンサーシップ事業（チャイルド支援事業）

（イ）低額診療事業

（ウ）エイズ支援事業

ii) 国内活動

(2) その他の事業

◎総括

まず今年度の事業を概括する。前年度は、円安による資金不足が顕著になり、海外事業地でのクリニック事業が閉鎖の危機に直面した。この問題を解決するために募集したクラウドファンディングを通じた支援のお陰で、2016年1月～12月の間、閉鎖に直面したクリニックを1年間運営することが可能となった。その結果、12,717人の患者（2016年4月～17年3月）がクリニックで診察を受けることが出来た。この1年間の猶予がなければ、クリニックの閉鎖は避けることが出来ず、多くの子ども達が影響を受けるのは必至であった。危機に直面した時に、支えてくださったドクターの皆様、支援を頂いた皆様に心より感謝の意を表したい。

資金面での問題が解決する反面、2016年度は、円安に続く問題として、労使問題に直面することとなった。現地ケニア共和国では、国公立の病院での医師・看護師のストライキが続いており、給与の400%アップを目指し運動が続いている。こうした動きが、タクシー業界や航空業界にも波及していき、現地で運営しているクリニックも例外ではなかった。

職員による労使交渉が頻発するようになり、団体との対立が顕著となる中、再び、現地クリニックの閉鎖が危ぶまれる状況に直面した。このままでは、クリニックを利用する子ども達が治療を受けられない可能性が出てきたため、治療が必要な子ども達のことを第一に考え、団体単独での運営を諦め、資金面・運営面で、他団体との協働運営を模索するに至った。複数の団体と提携交渉した結果、最終的に来年度から、CDC 米国疾病対策センター・アフリカ最大のNGOであるAMREF（Amref Health Africa）・団体の3者で協働運営することとなり、クリニックの事業継続が決定的となった（2017年5月1日の契約批准予定）。

今後は、団体・CDC 米国疾病対策センターが、ドナー団体となり資金拠出し、AMREFがクリニックの運営を担当することとなる。

◎各事業詳細

(1) 特定非営利活動に係る事業

①東アフリカケニアでのボランティア保健医療活動

i) 海外活動

（ア）医療スポンサーシップ事業：

a. 保健医療リハビリテーションサービスの提供

チャイルドドクター制度^{※1}を利用し、子ども達への無料医療支援を行った。2017年3月時点で、低所得地域に暮らす子ども296名（前年同時期約324名）、孤児院・施設に暮らす子ども117名（同113名）、慢性疾患を患う子ども60名（同59名）、合計473名（同496名）が登録され医療支援を受けている。

当クリニックでの登録児の医療費はすべて無料とし、手術や専門的治療、加療を含む高度な医療サービスを必要とする場合は提携する国立・民間病院等に紹介する。そのすべての治療費を当会が負担する。

b. 会員維持（継続支援会員＝チャイルドドクター）

2008年12月にチャイルドドクター制度を開始。2017年3月末時点で、2,828人が支援登録中（昨年同時期2,895人）。

また、支援口数は、1,000円換算で3,896口数の登録（昨年同時期3,939口）であった。退会者数108人（昨年同時期152人）、新規入会数39人（昨年98人）。

c. サービスの質の向上

医療支援に加え、主に重度の身体障がいを抱えたチャイルドが当クリニックを利用する際の送迎サービスを実施した。子どもの成長、体重増加に伴い、親や養育者の身体的負担が増し、子どもを背負って公共交通機関を利用して来院することが難しい背景がある。

d. 現地での広報活動

ケニア在留邦人や見学希望者を対象に、現地活動見学会を15回実施した。

e. その他の特筆すべき活動

Facebook、ブログなどのSNSを活用し広報、啓発活動を行った。今年度は、合計178件の記事（昨年度136件）、動画19件を配信した。写真では伝わりづらい、スラムや孤児院での子供たちの様子やリハビリ中の子供たちの様子を動画で配信し、現地の様子を伝えた。

※1 チャイルドドクター制度

1口1ヶ月1,000円～の支援金で1人の子どもと交流しながら医療支援を実施。

会員種別は「継続支援会員」、スポンサーを「ドクター」、支援児を「チャイルド」呼ぶ。ホームページ上で支援申し込みができる。支援を受けた子どもは無料診察券を受領し、医療サービスを無料で受けられるようになる。

支援金（会費）納付はクレジットカード決済、銀行振込を利用（利用率：カード決済58%、銀行振込42%）

(イ) 低額診療事業：

運営するチャイルドドクタークリニックにおいて、主に低所得者対象に低額診療を提供した。事業の内容は下記の通り。

- ・施設：待合室、受付、問診・処置・経過観察室、診察室、薬局、検査室、母子保健/家族計画室、カウンセリング室、家族カウンセリング室、リハビリセンター
- ・診療日時：月～金曜日8：45～16：15
- ・診療人材：小児科医1名（日本人）、（以下ケニア人）準医師2名、看護師3名、検査技師1名、薬剤師2名、カウンセラー2名、受付・データ1名、作業療法士1名、理学療法士1名、その他非常勤スタッフ
- ・提携団体：社会医療法人医真会／ランガタ地区保健局／米国大統領エイズ救済緊急計画(PEPFAR)／ケニア中央医学研究所(KEMRI)／FACES(NGO:Family AIDS Care & Education Services) サンフランシスコ大学／米国開発庁(USAID)／MEDS(NGO: Mission for Essential Drugs & Supplies)／Speical Education Professionals(SEP)／Amref Health Africa(AMREF)／その他 公立・私立病院(Kenyatta National Hospital, Marter Mission Hospital、Mbagathi Hospital)

- ・診療代：患者は登録料 130 円程度を支払い、薬品・検査は別途加算。リハビリ訓練 65 円程度、HIV 陽性患者への診療および薬剤は無料
- ・診療内容：一般外来（内科、小児科、その他）、HIV 患者包括的ケア、妊婦検診、家族計画、予防接種・小児健診、慢性疾患（高血圧・糖尿病など）外来、カウンセリング（心理、栄養など）、理学・作業療法
- ・今年度の実績：
 - 所轄のランガタ地区保健所の要請を受け、予防接種の国家キャンペーンに車両、人員（ドライバー、看護師）を提供し協力した。
 - 小児慢性疾患患者（脳性麻痺、先天性心疾患、血液遺伝病など）の増加に伴い、連携施設の増加、診療の充実を昨年度に継続して実施した。
 - 主に医療スタッフを対象に Continuous Medical Education (CME) という医療勉強会を開催し、職員の保健医療に関する知識をアップデートした。（月 1 回・計 7 回）
 - 疾病予防の観点から、クリニックの待合時間を利用して週 1 回ヘルストークを提供し、一般住民への健康教育をおこなった。
 - Special Education Professionals (SEP)^{※2}と連携し、様々なトピックでワークショップを合計 16 回開催した。

※2 Special Education Professionals (SEP)

1990 年ケニアで登録された非営利団体で、特別支援教育に携わる医療従事者、教育関係者の混生チームから成り、家族や養育者、専門家への研修の開催、家族や養育者からの個別相談、地域の小規模グループや組織への技術支援、一般への啓蒙活動等を行っている。チャイルドドクターは 2014 年から同団体と提携している。

・患者数推移：

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2005年度	482	435	386	499	419	405	301	358	214	245	276	383	4403
2006年度	313	669	591	541	508	473	491	472	375	529	552	833	6347
2007年度	591	807	918	1089	1153	1133	1131	1081	722	736	956	992	11309
2008年度	1208	1262	1159	1216	1129	1111	1139	1080	621	1036	1078	1074	13113
2009年度	1012	1100	1367	1254	1054	884	1088	1039	600	911	925	862	12096
2010年度	989	1005	1052	1185	1095	924	888	1132	659	927	1018	1005	11979
2011年度	998	1113	990	1083	1111	880	889	1015	390	642	794	927	10832
2012年度	994	1059	1021	1134	962	1030	1263	1221	758	942	1231	583	12198
2013年度	993	1453	869	1260	1153	908	1197	1179	582	996	1257	1467	13314
2014年度	1182	1377	1109	958	1237	1213	867	1171	675	935	1129	1073	12926
2015年度	1091	1284	1315	1255	1230	1171	1115	1237	856	931	1318	1221	14024
2016年度	930	1178	1297	1014	1251	1034	970	1085	731	839	1142	1246	12717

内訳) 新患患者 1,605 名、(以下のべ人数) 一般外来 5,631 名、HIV 外来 3,250 名、低所得地域スポンサー支援児 621 人、慢性疾患スポンサー支援児 1,021 人、孤児院スポンサー支援児 165、妊婦健診 99 名、家族計画 95 名、予防接種 189 名、リハビリ訓練 1,754 名

(ウ) エイズ支援事業：HIV 感染者/エイズ患者への無料医療支援：

当クリニック HIV 包括的ケアセンターにおいて、引き続き HIV カウンセリングとテスト、日和見感染症予防と治療、抗 HIV 剤の投与、栄養カウンセリングと補助食品の配布、免疫検査、結核検査、精神的・社会的支援のためのカウンセリングなどを無料で提供した。2016 年度の HIV テスト件数は 770 名、2017 年 3 月末までに計 1,067 名が登録され、現段階で 742 名が抗ウイルス剤投与が継続されている。

ii) 国内事業

国内での活動が、予定した通りには実施出来なかった。理由は、予定していた国内での活動に関連する現地クリニックが、提携団体へ運営が移管されることが確定したためである。また、提携に向けて、運営委託先の選定・契約交渉に国内事業スタッフが長期で関わったため、予定されていた他の国内事業においても実施が出来なかった。

(ア) ファンドレイジング事業：

a. 未収金回収

未払金に対しては、HPに未収金プログラムを追加する予定であったが、年度内に抜本的な改革に取り組むことが出来なかった。

b. オーナー制度の導入

クラウドファンディングでのオーナー制度（1回募金型）を受けて、クリニックのオーナー制度（毎月継続引き落とし型）を団体サイト内に設置予定であったが、現地クリニック自体が、アムレフケニア事務所へ運営移転される予定となったため、オーナー制度は実施出来なかった。

c. クラウドファンディングの利用

クラウドファンディングでのオーナー制度（1回募金型）を受けて、クリニックのオーナー制度（毎月継続引き落とし型）をクラウドファンディングレディーフォーサイト内に設置予定であったが、現地クリニック自体が、アムレフケニア事務所へ運営移転される予定となったため、オーナー制度の実施が出来なかった。

(2) その他の事業

① 会報冊子販売：オリジナルカレンダーの制作販売

1年ぶりにオリジナルカレンダーを復活させ、A4版1種類を制作した他、リクエストが多く広報資料としても長く使用可能なポストカードを制作、5枚1組で販売した。販売数は、カレンダーが225冊、ポストカードが36組であった。

② 東アフリカケニアの特産品・民芸品の販売

事務局運営上の問題で地域イベントでの販売会は実施しなかった。